

岐阜県農業技術センター

Gifu Prefectural Agricultural Technology Center

— 「清流の国ぎふ」の未来を支える農業・農村づくりを目指して —

担い手づくりや農業経営の安定化、競争力のある産地づくりなどの生産現場の課題や、人口減少や経済のグローバル化、地球温暖化の進行などの環境変化に対応した研究開発に取り組むとともに、保有する技術情報を活かした農業者、産地への技術支援を展開しています。



水稲「ハツシモ岐阜SL」
「ハツシモ」に縞葉枯病抵抗性
遺伝子を導入した品種
(平成23年品種登録)



フランネルフラワー「フェアリームーン」
フランネルフラワーでは初となる黄色系品種
(平成26年出願公表)



イチゴ「華かがり」
果実が大きく、ジューシーで形がきれい
(平成29年品種登録)



カキ「ねおスイート」
サクサクした食感を有し、超高糖度
(平成29年品種登録)



性フェロモンによるカキ害虫防除



トマト独立ポット耕栽培



地力窒素の簡易評価

作物部

- ・気候変動に対応し、産地間競争に負けない水稲新品種開発を行っています。
- ・オーダーメイド型米作りで求められる多様なニーズに応える水稲新品種の栽培技術を開発しています。
- ・小麦や大豆の安定収量と品質向上を目指した栽培技術の研究を行っています。
- ・水稲、小麦、大豆の平坦地域に適する品種の選定や原原種の生産を行っています。



水田にハウスを設置して高温耐性を検定



大豆の安定収量確保に向けた品種検討



小麦の安定多収栽培技術を開発



高品質米生産を目指した品質調査

花き部

- ・バラ等の切り花やフランネルフラワー、ローダンセマム等の鉢花の新品種育成を行っています。
- ・気化熱を利用したドライミスト冷房や日没後(EOD)の短時間冷房による高温対策技術の開発を行っています。
- ・ファインバブルを活用したO₂の根部への施用による生産性向上技術の開発を行っています。



切花用フランネルフラワー「ファンシーマリエ」



ローダンセマム「クレールローズ」



カレンジュラ「オレンジパンナコッタ」



ドライミストによる高温対策技術の開発



日没後の短時間冷房による品質向上技術の開発

野菜部

- ・ICT技術を活用したトマト、イチゴの本県オリジナル養液栽培システムの高度化のための研究を行っています。
- ・新規就農に適した新たな作目（キュウリ）の養液栽培システムの開発のための研究を行っています。
- ・気候変動に対応したイチゴの栽培管理技術の開発のための研究を行っています。
- ・イチゴの新品種を育成しています。また、育成した品種の栽培管理技術の検討や優良種苗生産を行っています。



トマト独立ポット耕栽培の高度化



キュウリの養液栽培システムの開発



ミストを活用した気候変動対応技術対策



育成3品種の優良種苗生産

果樹・農産物利用部

- ・カキの新品種育成を行うとともに輸出等の新たな販売方法を促進するためAI技術を用いた選別機器の開発を行っています。
- ・初心者や高齢者でも栽培管理が容易にできるようにデジタル技術を活用した栽培支援システムを開発しています。
- ・温暖化への対応方法を確立するとともに新たな果樹品目の栽培の可能性について検討しています。
- ・茶や果実の品質保持のための研究、県産農作物を用いた加工品への利用が可能な素材化研究を行っています。



「ねおスイーツ」の最高級ブランド「天下富舞®」



亜熱帯果樹(アボカド)の露地栽培法の確立



カキの盛土式根圏制御栽培



茶・カキの加工品

土 壌 化 学 部

- ・ 環境保全や資源循環利用のためにリサイクル技術、土壌蓄積養分の活用技術を開発しています。
- ・ 作物の良好な生育のための適正施肥技術や生理障害対策技術の開発を行っています。
- ・ 県内で生産される農産物や資材の安全性モニタリングを実施しています。

資源循環利用技術



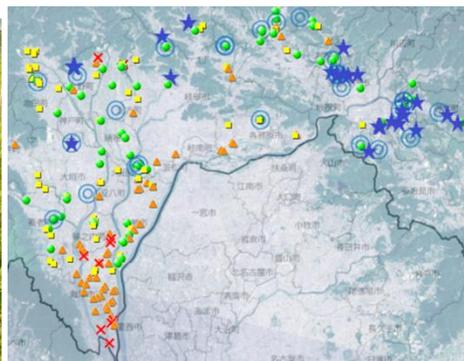
堆肥を用いた肥料開発



開発肥料・各種資材の肥効試験



窒素適正施肥技術



水田地力の実態解明
(地力マップの作成)



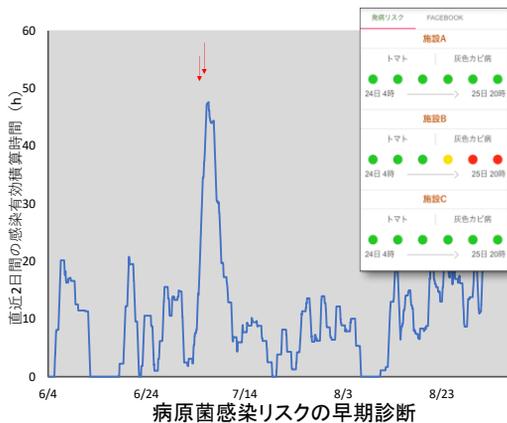
生理障害対策(トマト葉先枯れ症)

病 理 昆 虫 部

- ・ 安全・安心な農産物づくりのため、化学農薬のみに依存しない病害虫防除技術に関する研究を行っています。
- ・ ICTやAI技術等を活用した病害虫診断や発生予測技術と、防除作業の省力化・効率化に関する技術開発を行っています。
- ・ 新規発生、難防除病害虫の診断と防除対策技術の開発を行っています。
- ・ 気候変動に対応した病害虫対策技術について検討しています。



物理的防除技術

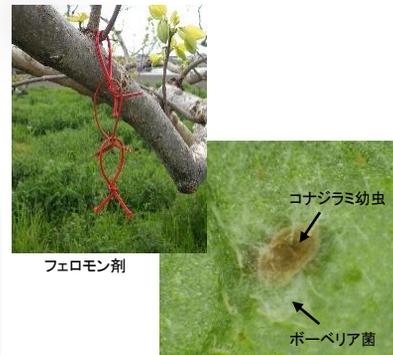


病原菌感染リスクの早期診断



土壌還元消毒

難防除病害虫の防除対策



フェロモン剤

コナジラミ幼虫

ポーベリア菌

天敵・微生物農薬・フェロモンの活用

技術支援

◆重要課題について農業経営課・農林事務所農業普及課と一体となって連携研究を行い、問題解決を図ります。



フランネルフラワー研究会



ハツシモ岐阜S Lの力食味化に向けた省力施肥現地一体型実証試験



トマト独立ポット耕研究会

◆現場で問題となっている病害虫土壌診断や作物の生育診断等の技術相談を行っています。



ねおスイート栽培講習会



分析機器による土壌診断



病害虫診断

◆研究会、講習会や研修生の受け入れによって 有用な技術の普及を目指し岐阜県農業を支える人づくりに貢献します。

人材育成

◆岐阜大学応用生物科学部ならびに大学院自然科学技術研究科と教育研究協力に関する協定を締結し、将来の本県農業を支える研究人材を育成しています。



地域農業技術論実習

◆岐阜農林高校や農業大学校の研修受け入れや県内の大学、高校ならびに本県出身者を中心としたインターンシップの受け入れを行っています。



インターンシップ



岐阜農林高校プロジェクト研究支援



◆東海地域農業関係試験研究機関連携協定を締結し、東海4県共同で若手研究員の資質向上に努めています。



東海4県「統計研修」

研究開発基本方針

「ぎふ農業・農村基本計画」に基づく取組みを、生産技術面からサポートするため、以下の方針で研究開発に取り組めます。

なお、担い手づくりやブランド力強化、ICT・AI技術を活用した農業のDX(デジタルトランスフォーメーション)化、地球温暖化への適応など、重要性、緊急性の高い課題に対する研究を重点化し、革新的な技術開発を促進します。

- (1) 現場を一步リードする県民目線に立った研究開発の推進
- (2) 現場が抱える技術的課題への機動的、即応的な対応
- (3) 行政部局、関係機関、生産者団体との連携強化
- (4) 研究成果の積極的なPRと生産者・新規就農者への技術支援
- (5) 外部資金の積極的な活用
- (6) 研究開発を支える人材の育成

組織体制



沿革

- 1901年(明治34年) 岐阜県農事試験場創立(現在の岐阜市京町)
- 1904年(明治37年) 岐阜市加納(当時の稲葉郡加納町)に移転
- 1925年(大正14年) 現在地の岐阜市又丸(当時の本巣郡七郷村)に移転
- 1957年(昭和32年) 岐阜県農業試験場に改称
- 1962年(昭和37年) 海津市海津町(当時の海津郡)に南濃試験地を設置
- 1968年(昭和43年) 揖斐郡池田町に池田試験地を設置
- 1986年(昭和61年) 岐阜県農業総合研究センターに改称
- 1999年(平成11年) 岐阜県農業技術研究所に改称
- 2006年(平成18年) 岐阜県農業技術センターに改称
- 2010年(平成22年) 生物工学研究所廃止に伴い、内部組織として生物機能研究部を設置
- 2013年(平成25年) 南濃試験地を廃止
- 2016年(平成28年) 環境部、生物機能研究部を改組し、土壌化学部、病理昆虫部を設置
- 2018年(平成30年) 池田試験地を廃止
野菜・果樹部を改組し、野菜部、果樹・農産物利用部を設置